

### Ⅲ キャリア教育支援コーディネーター（以下「コーディネーター」という。）の活動状況

地域や関係機関との連絡調整を図るキャリア教育支援コーディネーターについて、「活動状況」「成果」「課題」「配置の必要性」の4つの観点から、両校にまとめていただきました。

#### 1 泉高等学校

##### (1) 活動状況

- ・進路指導室に常駐し、インターンシップ受け入れ先とのコーディネート役を主な目的に活動しています。インターンシップは、6月と10月に3日間ずつ設定されています。コーディネーターとして、この予定日に協力してもらえる企業を探すが、重要な業務になっています。現在、30社以上の企業を継続して訪問し、受け入れの協力を確保しています。
- ・他校の職員を対象とした研修会の講師やインターンシップ受け入れ企業での講演、就職希望者への面接指導、地域住民や保護者との交流会議への参加等も行っています。
- ・進路指導部の地域連携の窓口であるキャリア・サポート・デスク<sup>\*</sup>(CSD)の一員として、外部資源の有効な活用方法の模索や生徒への直接指導へも活動範囲を広げ、中心となるCSDスタッフ(教員)への後方支援なども行っています。

##### (2) 成果

- ・新たに開拓したインターンシップ受け入れ企業は40社以上にのぼりますが、現在受け入れ可能な企業は30社程度になりました。拡充が望まれることから、新たな受け入れ先を開拓しています。
- ・インターンシップに参加する生徒に対して行う事前・事後指導にも直接関わっており、事後のアンケート調査からも指導内容がインターンシップに活かされている成果が読み取れます。
- ・企業側との交渉の際に、学校側がキャリア教育の重要な機会としてインターンシップに厚い期待を寄せていることなどを説明しています。また、十分趣旨を理解してもらえようアクティブスクールの理念についても説明を加え交渉を行っています。

##### (3) 課題

- ・インターンシップ受け入れ可能な企業は、さらに新規開拓する余地もありますが、生徒からの参加希望がなければせっかく開拓した受け入れを断ることになってしまいます。希望の偏りから何回も断り続けざるを得ない受け入れ企業もあります。
- ・「産業社会と人間」の教科内容も含め、キャリア教育全般にわたり、生徒への直接的な関わりや指導の機会を増やし、他の教員と連携を密にしながら進める必要があります。

##### (4) 配置の必要性

- ・民間企業の実情を熟知するコーディネーターは、様々な企業とのつながりを生み出すかけがえのないスタッフです。インターンシップについて、準備から実施、事後指導、次年度への継続まで包括的に担当することは、一般企業での幅広い経験に裏打ちされ、企業側の事情にあわせてニーズを見極める腕を持たなければ非常に難しいと考えます。
- ・民間出身の指導者として、教職員とは異なる角度で生徒に語りかけ、「進路の先生」としての存在はもとより、一般社会の空気を知っている先輩としての的確なアドバイスを豊富に提示してくれます。社会の側から生徒の意識に迫り、生徒の勤労意欲を育て社会につなげる手法をとれる唯一の職員です。
- ・地域の企業や関係機関とつながり、生徒に自立のために必要な学習の機会を具体的に与え、より確かな一歩を踏み出せる力を育むコーディネーターは、地域連携アクティブスクールの掲げるキャリア教育推進のために、欠くべからざる存在となっています。

---

<sup>\*</sup> キャリア教育に関すること（インターンシップ、キャリア教育関連の学習について）を行う係。生徒の進路指導やインターンシップの指導を行う部署

## 2 天羽高等学校

### (1) 活動状況

地域連携アクティブスクールの教育活動の中核であるキャリア教育の意義と、それを推進するコーディネーターの役割について深く理解し、以下の様に地域の関係機関、企業との調整を行っています。

- ・ 求人企業等との情報交換
- ・ 農業体験活動における地元農家や関係機関との連絡調整
- ・ インターンシップ受け入れ企業との連絡調整
- ・ 地域連携アクティブスクールとしての天羽高等学校に係る広報啓発活動
- ・ 生活コースにおける、地元産の農水産物やそれを使った郷土料理の調理技術を学ぶ実習に係る調整
- ・ 地域連携行事に係る連絡調整

### (2) 成果

- ・ 地元の企業を訪問して、50 か所以上のインターンシップ受け入れ企業を確保し、2年生全員のスクールインターンシップ実施に貢献しました。
- ・ 当初から農業体験活動に係る調査に従事し、圃場の確保、経費の見積り、地元の農業体験塾「相川風と緑の里」との協同体制を構築して、平成 24 年度入学生から農業体験を実施することを可能としました。
- ・ 生徒の「顔」や学校の教育方針が地域に見えることを重視して、地元の伝統行事である「湊川灯籠流し」への生徒の参画を果たしたほか、生徒の活動を発表する場を創出しました。
- ・ 毎月 49 地区の区長宅を訪問し、学校便り「天高通信」の回覧を依頼することにより、4,900 世帯に回覧できるようになりました。
- ・ 地元のロータリークラブと学校の協力関係を構築し、情報交換の場を設けるとともに、そこでの話し合いをもとに本校教育活動への助成が得られるようにしました。
- ・ 家政コースを選択した生徒の調理技術向上と地元水産物への興味・関心などを高められるよう、行政や漁業協同組合との協同体制を構築して、食材や講師などの手配等を行いました。

### (3) 課題

- ・ 複数年を見通した、校内体制づくりが必要です。
- ・ 現在、「実践的なキャリア教育」において大きな成果を上げているのは、コーディネーターの人選等のおかげです。今後も、事業を推進していくためには、継続的な配置が必要です。
- ・ 学校外では「キャリア教育」が「職業選択」あるいは「職業訓練」などと同義にとらえられることが多く、正しい理解を得るための広報・啓発活動が必要です。

### (4) 配置の必要性

- ・ 緒に就いた事業を継続、発展させていくために、コーディネーターの存在は不可欠です。
- ・ 地元での人脈、人材を含めた地元リソースに対する深い知識など、とても教員の力で代替できるものではありません。専門性を生かした指導等の質を高め、学校が新たな取組を始めるためのモチベーションを高めるためにも是非とも必要な役割です。